

横手 2019年11月29日

秋田県横手市大雄で＜横手産ホップ＞を使ったビールの初飲み会が開催！



11月8日、日本産ホップの産地である秋田県横手市の大雄（たいゆう）地区で、今年収穫されたばかりのホップを使ったビールを楽しむ「大雄初飲み会」が開催されました。当日集まった参加者は約200人！ビールに舌鼓を打ちながら、今年も無事にホップ収穫が終わったことをお祝いし、互いの苦労をねぎらいました。

横手市は、日本でも指折りのホップ産地として知られています。しかし、生産者の高齢化や後継者不足によりホップの生産量は減少しており、このままでは横手からホップの姿が消えてしまうのでは、と心配されていました。

そこでキリンは、横手のホップを守るため、横手市と協力し、大雄ホップ農業協同組合（以下、大雄ホップ農協）や関係団体の皆さまの力をお借りしながら、ホップを通じた地域活性化の取り組みを進めてきました。

2019年3月には、この活動をより広めていくため、横手市や大雄ホップ農協、民間企業や地元有志の皆さま、そしてキリンが官民連携組織「よこてホッププロジェクト」を設立。横手市を「ホップの郷」にするため、またホップが“よこての宝”であることを地元の皆さまに感じていただくため、日々力を尽くしています。



さて、この度行われた「大雄初飲み会」ですが、実はもともと、横手市と同じくキリンと契約栽培を行っている岩手県遠野市のホップが使用された「一番搾り とれたてホップ生ビール」の発売を祝うために企画された催しでした。（今年は10月29日に全国発売）

当初は大雄ホップ農協の組合員有志が、同じ日本産ホップを生産する仲間として発売を盛り上げようと始めたものですが、現在は組合員だけでなく、地域の皆さまと共に収穫の喜びを分かち合えるような会になりました。



2018年の最優秀ホップ栽培者 安藤正士さん

初飲み会当日は、ホップ生産者や地域の皆さま、キリンの関係者など約200人が参加。乾杯には、クラフトビール「生ホップ 超特急 IBUKI オブ・ザ・イヤー」が振る舞われ、参加者からは「甘さが感じられて、ておいしい」とご好評いただきました。

「生ホップ超特急 IBUKI オブ・ザ・イヤー」に使われているホップ「IBUKI」を栽培したのは、2018年にキリンから最優秀ホップ栽培者として表彰された、大雄ホップ農協の安藤正士さん。安藤さんは、自身が栽培したホップだけを使用して商品化

されたことに「夢のまた夢を実現させてもらい、ものすごくうれしい」と笑顔を浮かべました。
地元のホップを使ったビールでの乾杯と共に、終始和やかなムードに包まれた横手市大雄での初飲み会となりました。